

編集後記

第1論文は、前号に引き続き田中岬の執筆です。田中岬は「子どもが輝く実践」をつくるのがとても上手です。また、アイデアウーマンなので「きゅうちゃん」を使いこなしていく手際も見事です。田中学級の子どもたちは「きゅうちゃん」と一緒に生き生きと活動しています。かつ、着実に力をつけています。「特別支援教育+看図アプローチ」という新しい領域を、田中自身も楽しみながら開拓してくれています。田中論文は、「全国看図アプローチ研究会」の大発明「きゅうちゃん」の活用方法を、また一つ広げてくれています。

ふたつめの山口奈津子・田中伸子他論文は、日本協同教育学会 第18回大会において発表した実践がもとになっています。この口頭発表の評判が良かったので、山口奈津子に論文としてまとめてくれるよう依頼しました。学会発表の時「看図アプローチは教科外活動の指導にも使える」ということが知れました」という感想をフロアの先生が述べていました。看図アプローチを「教科の指導」だけではなく「教科外活動の指導」にも使う。このようなちょっとした発想の転換をいかして山口奈津子・田中伸子をはじめとする長崎県央看護学校チームは様々な実践を展開してくれています。山口から鹿内に届いたメールに、次のような言葉がありました。「看図アプローチなしでは、ほんとにこの仕事できないなーと感じています。」ありがとうございます。これからも、長崎県央看護学校からの「発信」は続していくと思います。これからが楽しみな論文に仕上がっていきます。

第3論文は、石田ゆきの連載です。今回は、「『とっても大事なちょっと使い』なきゅうちゃん活用例を紹介」してくれています。「看図アプローチは敷居が高い」と思っておられる先生がおられましたら、ぜひ「きゅうちゃんのちょっと使い」をしてみてください。きっと「きゅうちゃん」と仲良しになれると思います。看図アプローチを活用した授業の楽しさやおもしろさを体感していただけると思います。

昨年12月に『全国看図アプローチ研究会研究誌』16号を公刊しました。年が明けて1月。もう、次の17号を公刊できることになりました。組版から校正・表紙デザイン等々、大変な仕事を石田ゆき編集長が全部引き受けてくれています。しかも、前号・今号では論文まで執筆してもらっています。献身的な尽力に多謝です。

文責 鹿内信善

全国看図アプローチ研究会研究誌 17 号

発行年月日 2023 年 1 月 25 日

編 集 「全国看図アプローチ研究会研究誌」編集委員

石田 ゆき

伊藤 公紀

鹿内 信善 *

山下雅佳実

渡辺 聰

(* 印は編集代表)

発 行 全国看図アプローチ研究会



kanzu-approach.com

事務局長 山下雅佳実 (中村学園大学短期大学部)

編集長・DTP 石田ゆき